

否定の意志表現をめぐって

尾崎 奈津

1. はじめに

従来、意志表現に関しては、「スル」「シヨウ」「スルツモリダ」といった形式を対象に詳しい記述が進められてきている。だが、そのほとんどが肯定形を中心としたものであり、否定形に関しては「シナイツモリダ」など「つもり」を含む類義表現の異同や、「マイ」の接続のゆれといった否定特有の現象を扱ったものがわずかにあるだけである。

しかし、肯定と否定は必ずしも整然と対応するものではないことを考えれば、例えば「スマイ」なども単に肯定の「シヨウ」に対応する否定形としてすませるのではなく、その意味・機能を独自に詳しく検討してみることが必要ではないかと思われる。

本稿では「スマイ」¹⁾「シナイ」「シナイツモリダ」「スルツモリハナイ」(以下、「シナイツモリダ」「スルツモリハナイ」を“ツモリ系”とする²⁾)を対象に否定の意志表現³⁾について考察し、否定形式相互の異同、ならびに肯定の意志表現と否定の意志表現の違いを明らかにしていきたい。

考察は以下の手順で進める。まず、次の2節では先行研究を概観したのち、否定の各形式の基本的な機能を整理する。次に3節では、前接する動詞の特徴をもとに肯定の意志表現と否定の意志表現の比較、および否定形式相互の比較をおこなう。そして4節と5節で各形式の持つ意味特性をみる。なお、以下、例文で筆者が書き換えた部分はカタカナで記す。また出典のないものは作例である。

2. 否定の意志表現の全体像

2.1 先行研究

否定の意志表現を体系的に考察した研究は、管見の限りではみられない。そこで、ここでは肯定の意志表現を体系的にとらえた研究として、仁田(1991a)と森山(1990)をみとめる。

仁田(1991a)は「聞き手のあり方」から意志を表す諸形式の異同を検討し、「スル {ツモリ/考エ/所存} ダ」は聞き手が存在するときでなければ使うことができない形式、「シヨウ」は聞き手が存在するときに使われることもあるが、主に心内発話や独り言など聞き手がいないうちに使われる形式、「スル」は「シテアル」や「スルゾ」といった形式になれば聞き手がいないうちに使われることもあるが、主に聞き手が存在するときに使われる形式としている。

森山(1990)は聞き手の存在の他に意志決定の時点にも注目し、「スルツモリダ」は発話時に決定した意志ではなく、以前からすでに決定していた意志を表す形式であるため、発話時での決定であることを示す「では(じゃあ) / それなら」とは共起しないことを指摘している。

以下では先行研究の指摘を参考にして、各否定形式の基本的機能をみてる。

2.2 各否定形式の基本的機能

2.2.1 聞き手への伝達性

はじめに、否定の各形式が聞き手が存在するときに使われる形式かどうか、つまり聞き手への伝達を意図した形式かどうかをみる。

仁田(1991a)は「と思う」の補文におさまるものは聞き手が存在しないときに使われる形式、おさまらないものは聞き手が存在するときに使われる形式としている。同様の方法で否定の各形式をテストしてみる。(以下、「スマイ」「シナイ」の文法性判断はすべて意志表現としてのものである。)

(1) 太郎には教えまいと思った。

(2) *太郎には教えないと思った。

(3) 太郎には {*教えないつもりだ/*教えるつもりはない} と思った。

上記のテストから、「スマイ」は心内発話や独り言など聞き手への伝達を意図しない場合に使われる形式、ツモリ系は聞き手への伝達を意図した場合に使われる形式であることがわかる。

「シナイ」は「と思う」の補文におさまりにくいことから聞き手への伝達を意図した場合に使われる形式といえそうだが、一方で「(心の中で) 負けない」のように心内発話や独り言で使われることもある。ただし、後者の場合、動詞により許容度にややばらつきが見られる。たとえば、「負けない」は心内発話として解釈しやすいが、「食べない」になると心内発話としてはやや解釈しにくく、「もう二度と食べない」や「食べないぞ」のように文脈あるいは「ぞ」の助けが必要となる。このように聞き手への伝達を意図しない用法があるものの、この用法はあまり安定していないことから、「シナイ」は主に聞き手への伝達を意図した場合に使われる形式といつてよいのではないと思われる。

2.2.2 意志決定の時点

次に、各形式がその場で決定した意志を表す表現かどうかをみてる。

(4) A社の製品から発癌性物質が検出されたというニュースを聞いて、もう買うまいと思った。

(4)はニュースを聞いて、買わないという意志を固めたことを表す文である。このように「スマイ」はその場で意志を固めたこと(以下、これを〈決意〉としておく)を表す形式である。ただし、〈決意〉といつても常に新たな決定のみを表すわけではなく、「二度と口をきくまいと改めて思った」のように一度決めた意志を改めて固め直すというような場合もある。

一方、ツモリ系はすでに決定済みの意志を表す形式であり、〈決意〉は表さない。このことは発話時の決定であることを示す「じゃあ」と共起しないことから確認できる。

(5) 「今行っても、太郎は家にいないよ」

「そう、じゃあ {*行かないつもりだ/*行くつもりはない}」

「シナイ」は次の(6)のように、「しないことに決めている」というすでに決定済みの意志を表す場合と、(7)のように〈決意〉を表す場合がある⁴⁾。

(6) 「来週の模試、受けるの？」

「受けない」

(7) 「今行っても、太郎は家にいないよ」

「そう、じゃあ行かない」

以上、聞き手への伝達性、〈決意〉を表すかどうかといった基本的な機能については、各形式とも対応する肯定形と同様であり、肯否の間で違いは見られない。

ただし、「スマイ」は実際の使用において「シヨウ」と異なる傾向がみられる。以下ではその点についてみる。

2.2.3 「スマイ」の使用状況

「スマイ」に対応する肯定形「シヨウ」は基本的には心内発話や独り言で使われる形式だが、次のように会話文で聞き手への伝達を意図して使われる場合もある。

(8) 「荷物、重そうですね。お持ちしましょう」

「スマイ」も江戸期以前を題材とした小説などでは、会話文で聞き手への伝達を意図して使われた例がみられる。

(9) 「されば、届けますまい」弥平次は言った。(国盗)

しかし、現代では「スマイ」の用法はかなり狭まっており、会話文で使われることはほとんどない。次の表はシナリオ⁵⁾にみられた「スマイ」と「シヨウ」の使用状況を比較したもののだが、「シヨウ」が会話文でもかなり使われているのに対して、「スマイ」が会話文で使われた例は1例もなかった。また地の文(ト書きも含む)でも文末で使われた例はなく、すべて「見逃すまいとした」「見逃すまいと思つた」「見逃すまいと注視した」のように、補文で使われた例みであった⁶⁾。なお、次の表の「シヨウ」は意志の例のみの数値であり、“誘いかけ”の例は除いてある。

(10)

	シヨウ (計756例)		スマイ (計11例)	
	文末	補文	文末	補文
会話文	51	149	0	0
地の文	11	545	0	11

このように、「スマイ」は現代では相手への伝達を意図した用法はほとんどなく、自分の中での〈決意〉を表す用法に大きく傾いている。これは「シヨウ」とは異なる傾向である。

以上、この節でみた各形式の基本的機能をまとめておく。

(11)

	意志決定の時点について	伝達意図の有無
ツモリ系	すでに決定済みの意志	ある場合に使われる
シナイ	すでに決定済みの意志/その場での〈決意〉	ある場合に使われやすい
スマイ	その場での〈決意〉	ない場合が大部分を占める

肯否の比較でいえば、基本的機能は各形式とも対応する肯定形式とほぼ並行的であった。ただし、「スマイ」の伝達の意図の部分で「シヨウ」と異なる傾向がみられた。

以上の結果を踏まえ、次の節からは各形式の意味的な異同をみていく。なお上記でも述べたように、「スマイ」は現代では文末で使われることがあまりなく、「と思う」などの補文として使われることが多い。そこで以下では、文末の例だけでなく補文に現れた例も考察の対象に含めることにする。

3. 「自己制御性」からみた違い

3.1 肯定の意志と否定の意志の比較

意志表現のあり方を決める重要な要因の一つに「自己制御性」がある。ここでは各形式に前接する動詞の「自己制御性」をもとに、まず肯定の意志と否定の意志の違いを検討し、次に「スマイ」、「シナイ」、ツモリ系の違いをみってみる。

考察に入る前に、「自己制御性」について確認しておこう。仁田(1991a)は、「動きの主体が、動きの発生・遂行・達成を自分の意志でもって制御することができる」(p.243)といった性質を「自己制御性」とし、これにより動詞を三つに分類している。一つ目は動きの発生・過程・達成を自分の意志で制御できない「非自己制御性」の動詞(「呆れる、飽きる」など)、二つ目は、動きの発生・過程だけでなく、動きの成立・達成も自分の意志で制御できる「達成の自己制御性」の動詞(「行く、食べる」など)、三つ目は動きの成立・達成は自分の意志で制御できないが、成立・達成に至る過程や企ては自分の意志で制御できる「過程の自己制御性」の動詞(「落ち着く、勝つ」など)である。

このうち、「非自己制御性」の動詞は命令文にならない。一方「達成の自己制御性」の動詞と「過程の自己制御性」の動詞は命令文になるが、ただし両者は命じることが異なる。前者は動きの達成そのものを命ずる「達成命令」になる。これに対して、後者の動詞では、動きの達成そのものは「自己制御の埒外」であるため命令することができない。したがって、達成そのものを命ずるのではなく、例えば「落ち着く」であれば「落ち着くように努める」ことを命じるというように、動きの成立への過程・企ての遂行を命じる「過程命令」になるとしている。その上で、「くよくよする」のように肯定では命令にできないが(「*くよくよしろ」)、否定にすると命令にできる(「くよくよするな」)動詞があることが指摘されている。

まず、肯定の意志と否定の意志がそれぞれどの程度「自己制御性」の低い動詞をとり得るかを、意志を表す代表的な形式である「シヨウ」と「スマイ」を使って比較してみる。なお、以下では仁田(1991a)

の動詞の三分類を、「達成の自己制御性」の動詞と「過程の自己制御性」・「非自己制御性」の動詞（この二つをまとめて“自己制御性の低い動詞”としておく）の二つに分類してみる。後者二つを一つにまとめるのは、「くよくよする」のように、肯定では「非自己制御性」でも否定になると「過程の自己制御性」を示す動詞、あるいは逆に否定では「非自己制御性」でも肯定になると「過程の自己制御性」を示す動詞があるためである。

(12) 《「達成の自己制御性」の動詞》

行こう／行くまい、食べよう／食べまい、殴ろう／殴るまい、読もう／読むまい、など

(13) 《「自己制御性」の低い動詞》

a. しっかりしよう／??しっかりすまい、(元気を) 出そう／??(元気を) 出すまい、落ち着こう／??落ち着くまい、など

b. ??驚こう／驚くまい、??溺れよう／溺れまい、??誤解しよう／誤解すまい、??失おう／失うまい、??がっかりしよう／がっかりすまい、??嫌おう／嫌うまい、など⁷⁾

c. *飽きよう／*飽きまい、*生まれよう／*生まれまい、*覚めよう／*覚めまい、など

(12)が示すように、「達成の自己制御性」の動詞の場合は「シヨウ」「スマイ」の両方とも自然な表現になる。一方、「自己制御性」の低い動詞では、aのように「シヨウ」のみ自然なもの、bのように「スマイ」のみ自然なもの、cのようにどちらも不自然なものがある。

「自己制御性」の低い動詞のうち、aのグループに入る動詞は上記の他に「わきまえる」などごくわずかしかない。一方、bのグループに入る動詞は「後悔する、屈する、間違う、罹る、痛める、とりみだす、のがす」など多くみられる。肯定の「シヨウ」と否定の「スマイ」を比べると、否定の「スマイ」の方が「自己制御性」の低い動詞を許容しやすいようである⁸⁾。

なお、仁田(1991a)では、動詞と命令文の関係について「達成の自己制御性」の動詞は「達成命令」に、「過程の自己制御性」の動詞は「過程命令」になるとしていた。意志の場合も(12)のような「達成の自己制御性」の動詞は、事態の成立(達成)・不成立そのものを実現しようとする〈達成の意志〉になる。一方、(13)a、bのような「自己制御性」の低い動詞の場合は、事態の成立・不成立は意志の埒外にある。したがって、事態の成立・不成立そのものではなく、そこへ向けての「過程・企て」を遂行しようとする〈過程の意志〉になる。

3.2 否定の各形式と「自己制御性」

3.1で、肯定の「シヨウ」より否定の「スマイ」の方が「自己制御性」の低い動詞を許容しやすいことをみた。同様の傾向は「シナイ」とツモリ系においても確認できる。

(14)??後悔する／後悔しない、??屈する／屈しない、??疑う／疑わない

(15)??後悔するつもりだ／後悔しないつもりだ・後悔するつもりはない、??屈するつもりだ／屈しないつもりだ・屈するつもりはない、??疑うつもりだ／疑わないつもりだ・疑うつもりはない

(14)(15)が示すように、「シナイ」とツモリ系も対応する肯定形式より「自己制御性」の低い動詞を許容しやすい。

ただし、否定の各形式が同程度に「自己制御性」の低い動詞を許容するわけではない。ここでは「スマイ」、「シナイ」、ツモリ系を比較してみる。

(16)本番では {あがるまい/??あがらない/*あがらないつもりだ/*あがるつもりはない}

(17)勘違いすまい/??勘違いしない/*勘違いしないつもりだ/*勘違いするつもりはない

(14)(15)でみたように、「シナイ」とツモリ系は、「後悔する」や「屈する」などの動詞では自然な意志表現になる。したがって、これらの形式は「自己制御性」の低い動詞をとらないわけではない。だが、上記のように「あがる」や「勘違いする」の場合は意志表現には解釈できないか、あるいは不自然な表現になってしまう。このほかに「見失う、誤解する、はぐれる、溺れる」なども同様である。「スマイ」と比べると、「シナイ」とツモリ系は「自己制御性」の低い動詞をとりにくいようである⁹⁾。

また、仁田(1991b)によれば受身は「自己制御性」の低い表現とされるが、(18)のように受身を使ったテストでも、「スマイ」は自然な表現になるのに対して、「シナイ」とツモリ系は不自然になってしまう。さらに「うっかり」のように「無意識的、無意志的」(仁田(1997)p.251)であることを示す表現が共起した場合も同様である。

(18)あの先生にだけは {叱られまい/#叱られない/??叱られないつもりだ/*叱られるつもりはない}。

(19)うっかり {口を出すまい/#口は出さない/??口を出さないつもりだ/*口を出すつもりはない}。

以上のように、否定の各形式を比べると、「スマイ」は「シナイ」・ツモリ系よりも「自己制御性」の低い表現を許容しやすいようである。

この節でテストしてきたことをまとめれば、次のようになる。

(20)「自己制御性」の低い動詞・表現を許容する度合い

【肯定の意志と否定の意志の比較】 否定の意志>肯定の意志

【否定の各形式の比較】 「スマイ」>「シナイ」・ツモリ系

この結果を意志表現の分類からみれば次のようになる。否定と肯定を比較すると、全般に否定の方が〈過程の意志〉を表す傾向が強い。また否定の各形式を比較すると、「スマイ」は「シナイ」・ツモリ系より〈過程の意志〉を表す傾向が強い。

以上、ここでは前接する動詞、表現をもとに、各形式の異同を検討した。

4. 「スマイ」

4.1 「スマイ」の意味特性

ここからは、各形式の意味特性をみていく。

「スマイ」は「否定事態遂行」(仁田(1991a)p.223)への意志を表す形式とされるが、そこには様々

な含意がつきまとう。ここでは「スマイ」の意味特性を、3つのタイプに分けてみていく。

まず第一に、「スマイ」には“当該の事態が成立するようなことにならないよう努力しよう、心がけよう”という意味合いを持つ例がある。

(21)「和装業界の不振は、消費者の声を聞こうとしなかったことにある。私は、たんすの肥やしになるような商品をつくるまいと励んできましたから」。(asahi com.2002/2/28)

(22)司法書士の湯浅敏幸さんは、法律に反して早朝・夜間に取り立てをする業者の例や、自殺未遂しても入院先を探し出す例などを挙げ、「借金に違和感を持たない人は、だれにでも金を貸す悪徳業者を神様と呼ぶ。金の使い方にははじめを」と話した。講義を受けた緒方一也君(一八)は「絶対にお金は借りまいと思った」と話した。(朝日1998/11/8)

(23)平凡でも、今を幸せと思い、どん欲に多くを望むまい。(佐賀2001/9/9)

上記の例はそれぞれ、“たんすの肥やしになるような商品をつくるというようなことにならないよう”、“お金を借りるといようなことにならないよう”、“どん欲に多くを望むといようなことにならないよう”努力しよう、心がけようという意志を表している。

このタイプの例は、「シナイヨウニシヨウ」で置き換えることが可能である。なお「シナイヨウニスル」は事態を「成立させないこと」を目指して「努力する／心掛ける／配慮する」(『日本語文型辞典』p.623)ことを表す形式である。

(21')私は、たんすの肥やしになるような商品はつくらないようにしようと励んできましたから。

(22')絶対にお金は借りないようにしようと思った。

(23')平凡でも、今を幸せと思い、どん欲に多くを望まないようにしよう。

また、“当該の事態が成立するようなことにならないよう努力しよう”という裏には、当該の事態を避けるべき事態とする価値判断が伴いやすい。上記の各例は「シテハイケナイ」といった表現となじみやすいが、これもこのような含意によるものであろう。

(21'')私は、たんすの肥やしになるような商品をつくるまい、つくってはいけないと励んできましたから。

(22'')絶対にお金は借りまい、借りてはいけないと思った。

(23'')平凡でも、今を幸せと思い、どん欲に多くを望むまい、望んではいけない。

さらにこのタイプの例は、“努力しよう、心がけよう”という意味合いから、“最終結果は意志の埒外にある”という含意も伴う。

なお、この“(最終結果は意志の埒外だが) 事態が成立するようなことにならないよう努力しよう、心がけよう”という意味合いは、上述の「自己制御性」の低い動詞が示す〈過程の意志〉の意味とはほぼ同じである。ただしここで述べる意味合いは前接する動詞から生じるものではなく、あくまでも「スマイ」という形式自体の持つ意味合いである。このことは(21)(22)の動詞が「つくる」「借りる」という「達成の自己制御性」の動詞であることからあきらかであろう。

次に第二のタイプとして“何らかの目的のために、意図的に事態が実現しない状態・状況にしよう”という意味合いを持つ例がある。次の(24)は“楽しい授業をするために、意図的に合格した教科書を使わない状況にしよう”という意志を表している。

(24)教科書は大幅修正の末に合格した。しかし、教員は、自分の授業では使うまいと思っている。

適当なプリントを教材にした方が、楽しい授業展開ができると考えるからだ。(朝日2000/4/5)
このタイプの例は、「シナイデオコウ」で置き換えることが可能である¹⁰⁾。なお「シナイデオク」は「何らかの理由・目的があって、意図的に「…しないままでおく」(『日本語文型辞典』p.371)ことを表す形式である。

(24')しかし、教員は、自分の授業では使わないでおこうと思っている。

この第二のタイプは、第一のタイプと異なり、「シテハイケナイ」という価値判断を表す表現とはややなじみにくい。

(24'')教科書は大幅修正の末に合格した。しかし、教員は、自分の授業では使うまい、使っては
けないと思っている。適当なプリントを教材にした方が、楽しい授業展開ができると考えるからだ。

また、第一のタイプが“最終的にどうなるかは意志の埒外”、つまり当該の事態は意図的に対処できるものではないという含意を持っていたのに対して、第二のタイプは当該の事態を意図的に対処可能なものとしている。この点でも両者は異なっている。

以上二つのタイプと異なり、第三のタイプとして、ごくわずかではあるが「シナイヨウニシヨウ」「シナイデオコウ」のどちらにも置き換えにくい例がある。

(25)信夫は初めて自分の想いをふじ子に告げることができた。そしてほんとうに、この可憐なふじ子以外のだれとも結婚 {すまい/??シナイヨウニシヨウ/??シナイデオコウ} と、あらためて心に誓った。(塩狩)

(26) (デート中、車を運転していた相手が道を歩いている老人を邪魔者扱いする。それを聞いて)
「こういう人とは二度と {会うまい/??会ワナイヨウニシヨウ/??会ワナイデオコウ} と思った」
(TBS「はなまるマーケット」2002/3/18)

(25)(26)は、“結婚しないよう努力しよう”“こういう人とは二度と会わないよう努力しよう”という意志を表しているわけでもなければ、何らかの目的のために意図的に“結婚しない状態にしよう”“こういう人と会わない状態にしよう”といった意志を表しているわけでもない。これらの例は、第一、第二のタイプのような特別な意味合いを伴うことなく、ただ“結婚しない”“こういう人とは二度と会わない”という自分の中での〈決意〉のみを表している。

4.2 用例の傾向

以上、「スマイ」には“当該の事態が成立するようなことにならないよう努力しよう”という意味合

いを持ち、「してはいけない」という価値判断を含意しやすい第一のタイプ、“何らかの目的のために意図的に事態が実現しない状態・状況にしよう”という意味合いを持つ第二のタイプ、このような意味合いを持たない第三のタイプがあることをみてきたが、実際に集めた用例をみると第一のタイプが圧倒的に多い¹¹⁾。「スマイ」は、特別な意味合いや含意を持つ、いわば色つきの意志を表す傾向が強いようである。

肯定の「シヨウ」も次の(27)のように「スルヨウニシヨウ」で置き換えられる例、すなわち“当該の事態を実現させるよう努力しよう、心がけよう”といった意味合いを持ち、さらに「しなければならぬ」という価値判断をも含意する例がないわけではない。だが、その数は少なく、(28)のように“努力しよう”という意味合いを持たない例がほとんどのようである¹²⁾。

(27) a. 「……そうやって、ずっと生きてきた。だから、自分が人を殺したこと、ちゃんと 向き合おう／向き合ウヨウニシヨウ」と思った……でも、向き合わせてくれなかった……お父さんも、圭一さんも……」(砂の)

b. 自分が人を殺したこと、ちゃんと向き合おう、向き合わなければならないと思った。

(28) 煙草を 吸おう／#吸ウヨウニシヨウ」と思ったがラクの箱をアパートの台所に忘れてきたことに気づき、ウェ이터を呼んでセブンスターを買い、マッチをもらった。(世界)

「スマイ」は肯定の「シヨウ」に対応する形式である。だが、2節でみた基本的機能およびこの節でみた意味特性に着目すれば、i. 〈決意〉を表す用法に偏っている、ii. “努力しよう”という意味合い、および価値判断を含意しやすい、という「シヨウ」とは異なる傾向がみられる。この点で、「スマイ」と「シヨウ」は必ずしも並行的ではない。

4.3 「スマイ」の意味特性と前接する動詞の「自己制御性」

この節の最後に、「スマイ」という形式の持つ意味合いと、前接する動詞との関係について整理しておきたい。

4.1で、「スマイ」の例にみられる“努力しよう”という意味合いは、あくまでも「スマイ」という形式自体が持つものであり、前接する動詞の性質から生じるものではないこと、いいかえれば、「スマイ」という形式自体の持つ意味合いと動詞の「自己制御性」から生じる意味は別のものであるということ述べた。ただし、両者はまったく無関係というわけではない。

第2節で「スマイ」は「自己制御性」の低い動詞を許容しやすいことをみたが、これには、「スマイ」の“事態を成立させないよう努力しよう”という意味合いと「自己制御性」の低い動詞が表す〈過程の意志〉、すなわち“事態の不成立へ向けての「過程・企て」を遂行しよう”という意味が無理なくなじむことも関係しているのではないだろうか。当然のことではあるが、両者の共起には、形式の側の要因と動詞の側の要因の両方が関わっていると思われるのである。

以上、この節では「スマイ」の持つ意味合い、含意について検討した。

5. 「シナイ」とツモリ系

5.1 「シナイ」とツモリ系の類似点

ここでは「シナイ」とツモリ系についてみていく。まず、両者の類似点を確認しておこう。

「シナイ」に対応する肯定の意志表現「スル」は、話し手の確実な「未来の動作の言明」(森山(1990) p.11)から意志の用法が生じたとされる。否定の意志表現「シナイ」も、本来は“自分が未来に当該の動作をとることは確実でない”ということ述べるものであり、**確実な未来の予告**といった意味合いを持つ。したがって「スマイ」にみられた“(当該の事態を成立させないよう)努力する”という**意味合い**や、そこから生じる“最終結果は意志の埒外であり、どうなるかわからない”という**含意**とはなじまない。

また、「スルツモリダ」は、本来「予定・計画」(森田(1988)p.745)を表す「つもり」からなる意図表現であり、そこから意志の用法が生じたものである。「シナイツモリダ」「スルツモリハナイ」も意図表現から発したものであり、**予定や計画としての意志**という意味合いを持つ。したがって、「シナイ」と同様、“(当該の事態を成立させないよう)努力する”という**意味合い**や、“最終結果は意志の埒外であり、どうなるかわからない”という**含意**とはなじまない。

このことは、努力することを表す「シナイヨウニスル」との置き換えからも確かめられる。「シナイ」と「シナイツモリダ」の例の中には、ごくわずかではあるが、次の(29)(30)のように文脈からいえば「シナイヨウニスル」も使えるといった例がある。だが、置き換えると“努力する”という**意味**が付け加わり、もとの文とはやや**意味**が異なってくる。

(29) 塚田の顔を見て、ようやく和んだ顔に戻る京子、それでもキッチリと、頭を下げて、

京子「もう2度と {しません/シナイヨウニシマス}」(正義)

(30) 「今後、不祥事を(できれば)起こさないようにしたい」と「今後、不祥事を(絶対) {起こさないつもりだ/起コサナイヨウニスル}」のどちらの方が信用できるだろうか。(朝日2000/8/5)
また、ほとんどの例は次のように置き換えることができない。

(31) (大学の進路を決める話し合いで)

「じゃあ、僕、決めたいんだ。僕、明倫は {行かない/#行カナイヨウニスル}。北川へ行かしてよ」
(太郎)

(32) 「先生にはならないんですか?」。教育学部の私が、民間企業の面接で必ず聞かれる言葉だ。私は教員採用試験は {受けないつもりだ/#受ケナイヨウニスル}。(朝日2000/4/20)

さらに、「スルツモリハナイ」は「シナイヨウニスル」に置き換えると意味が変わってしまう。

(33) 民主党の岡田克也政調会長は4日の記者会見で、政府・与党内に有事法制関連法案に関する与野党協議機関を設置する意見があることについて「(応じることは) 100%ない。協議を {するつもりはない/#シナイヨウニスル}」と述べた。(朝日2002/7/8)

このことから、「シナイ」とツモリ系は“努力する”という意味合いを含まないことがわかる。

なお、3.2で「シナイ」とツモリ系は「スマイ」に比べて「自己制御性」の低い動詞をとりにくいことをみたが、これも上述の“確実な未来の予告”、“意図あるいは予定・計画”といった本来の意味と、「自己制御性」の低い動詞の表す“事態の不成立そのものは意志の埒外にある”とする〈過程の意志〉とがなじまないためであろう。

5.2 「シナイ」とツモリ系の違い

「シナイ」とツモリ系には5.1でみたような類似点があるが、両者の意味は当然のことながら異なっており、相互に置き換えられない場合が多い。ここでは例文をもとに両者の違いを考えてみる。

次の(34)は、いわば“脅し”の例だが、「シナイ」をツモリ系に置き換えると、不自然になるかあるいは“脅し”の意味をなさなくなる。

(34) わかってるだろうね。今度失敗したら {許さない／#許さないつもりだ／#許すつもりはない}。

5.1でみたように、「シナイ」は必ずそうなるという“確実な予告”といった意味合いを含めて意志を述べる表現である。そのため“脅し”として効力を持つ。一方、ツモリ系は予定・計画としての意志を述べるものであり、実際にその通りになるかどうかまでは述べていない。そのため“脅し”としての効力が出ないのではないと思われる。

このように、「シナイ」とツモリ系は、必ずそうなるという未来の予告も含めて意志を述べる表現か、あるいは実際にその通りになるかどうかまでは言及せず、単に（予定・計画としての）意志のみを述べる表現かという点が異なっている。両者の違いも形式本来の意味に由来するものである。

以上、この節では「シナイ」とツモリ系の異同を検討した。

6. おわりに

否定の意志表現について検討した結果、次のような傾向が明らかになった。まず全般に否定の意志表現は肯定の意志表現より〈過程の意志〉を表す傾向が強い。また否定の各形式を比較すると、「スマイ」が最も〈過程の意志〉を表しやすい。いいかえれば、相手への伝達を意図した場合に使われる形式より、自分の中での意志固めを表す形式のほうが〈過程の意志〉を表す傾向が強い。

また「スマイ」は“努力しよう”といった意味合いや、「してはいけない」といった事態に対する価値判断などを含みやすい点で「シナイ」やツモリ系と異なっている。同時に対応する肯定形（「シヨウ」）とのずれも大きい。

以上、否定の意志表現についてみてきたが、今後、「スルモノカ」といった反語的な意志表現も検討する必要があるだろう。また意志に続いて否定の命令（禁止）などについても検討していく必要がある。これらは、今後の課題としたい。

注

- 1) 「スマイ」には「シマイ」「スルマイ」などの形態的なヴァリエーションがあるが「スマイ」で代表させる。
- 2) 「つもり」を含む形式には、「スルツモリデハナイ」もある。だが、「スルツモリデハナイ」は「追い出すつもりじゃないんだけど、早く帰ったほうがいいんじゃない?」のように、発話や行動の裏にある意図を説明する表現であり、意志表現とは言いがたい。そのため、ここでは扱わない。また、「シナイツモリダ」と「スルツモリハナイ」は意味・機能が異なるが、本稿の議論の範囲内では同様に扱って差し支えないと思われる。そこで、まとめて「ツモリ系」とし、特に必要な場合にのみ別個に記述することにする。「つもり」を含む三形式の異同については、森田・松木(1989)、加藤(1994)、『教師と学習者のための日本語文型辞典』、尾崎(2003)を参照していただきたい。
- 3) 考察の対象とする形式のうち、本来意志を表す形式は「スマイ」のみであり、「シナイ」「シナイツモリダ」「スルツモリハナイ」はもともとは「述べ立て」(仁田(1991a))の形式である。したがって、すべてを「意志表現」とするのは適切ではないが、便宜上、このように呼ぶことにする。
- 4) 安達(2002)は「スル」には意志を表すものと「話し手の予定」(p.39)を表すものがあるとしている。なお、「シナイ」には「そんな話、信じない」のような例があるが、これは話し手が現在、信じていないということを表すものであり、未来のことを述べるものではない。従って、意志表現とは異なる。
- 5) 資料としたシナリオは次の作品である。

北川江吏子『素顔のまままで』フジテレビ、野沢尚『結婚前夜』読売新聞社、三谷幸喜『古畑任三郎』扶桑社、北川江吏子「ビューティフルライフ 第一回」(『ドラマ シナリオ・マガジン2』No.248映人社)、清水有生「先生知らないの 第二回」(『ドラマ シナリオ・マガジン5』No.227映人社)、戸田山雅司「正義は勝つ 第二話、第三話」(『ドラマ シナリオ・マガジン12』No.198映人社)、伴一彦シナリオ集(伴一彦オフィシャルサイト)より32作品、計38作品。

- 6) さらに、新潮文庫の100冊CD-ROM版のうち、作家42名の作品81作品(すべて戦後に出版されたもの。ただし、『国盗り物語』など江戸期以前を題材とした作品は除いてある。)を対象に「スマイ」(計126例)の使用状況を調べたところ、ここでも以下のように会話文の例はわずかしかなかった。

	文末	補文
会話文	2	1
地の文	23	100

- 7) 「わざと～する」「～ふりをする」といった意味なら「驚こう」なども可能である。
- 8) 『日本語基本動詞用法辞典』と久保進(1987)にあげられている動詞を中心に調べたところ、文脈などで判断のゆれそうなものを除くと、「シヨウ」は自然だが「スマイ」は不自然なもの13例、「スマイ」は自然だが「シヨウ」は不自然なもの86例であった。この中にも判断が多少ずれるものがあるとは思いますが、肯定より否定のほうが「自己制御性」の低い動詞を許容しやすいという傾向はみとめてよいだろう。

- 9) 「シナイ」とツモリ系を比べると、「驚かない/?驚かないつもりだ/?驚くつもりはない」のように「シナイ」の方がやや「自己制御性」の低い動詞を許容しやすいようである。
- 10) 用例の中には「シナイヨウニシヨウ」「シナイデオコウ」の両方で置き換えられるものもある。第一のタイプと第二のタイプは連続的である。
- 11) 注5)にあげたシナリオおよび注6)にあげた小説のほか、対談集、新聞などから集めた用例をみたところ、295例中260例(88%)は「シナイヨウニシヨウ」で置き換えが可能な第一のタイプであった(このうち38例は「シナイデオコウ」でも置き換えが可能)。なお、「スマイトスル」の例は「スマイ」を「シナイヨウニシヨウ」で置き換えると「シナイヨウニシヨウトスル」となり、意味内容以前に形式自体が不自然になるため除いてある。ただし、形式の不自然さをひとまずおき、意味内容のみから判断することにして「スマイトスル」の例を入れて調べても、比率はほとんど変わらなかった。
- 12) また、実際に「スルヨウニシヨウ」という例自体も少ない。注6)であげた小説81作品をみたところ、「スルヨウニシヨウ」の例はわずか7例であった。

用例の出典

司馬遼太郎『国盗り物語』、曾野綾子『太郎物語』、三浦綾子『塩狩峠』、村上春樹『世界はハードボイルド・ワンダーランド』(以上、CD-ROM版新潮文庫の100冊)、戸田山雅司「正義は勝つ 第二話、第三話」(『ドラマ シナリオ・マガジン12』No.198映人社)、伴一彦『砂の上の恋人たち』(伴一彦オフィシャルサイト)、『朝日新聞』(朝日新聞記事データベース)、インターネットasani.com.、『佐賀新聞』(佐賀新聞記事データベース)

参考文献

- 安達太郎1999「意志のモダリティと周辺形式」『広島女子大国文』16
—— 2002「意志・勧誘のモダリティ」『モダリティ』くろしお出版
- 奥村三雄1964「打消の推量の助動詞」『国文学』9-13
- 尾崎奈津2003「「スルツモリダ」の否定形について—「シナイツモリダ」「スルツモリハナイ」「スルツモリデハナイ」—」『言語学論叢』10岡山大学言語学研究会
- 加藤陽子1994「名詞性をもつモダリティの否定形式について」『日本語と日本文学』20
- 金田一春彦1953「不変化助動詞の本質(上) —主観的表現と客観的表現の別について」『国語国文』第22巻第2号
- 久保進 1987「ムードの文法」『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究・8』
- 小泉保、船城道雄、本田晶治、仁田義雄、塚本秀樹編1989『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
- 杉本和之1995「意志動詞と無意志動詞の研究—その1」『愛媛大学教養部紀要』28

- 寺村秀夫1984『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 仁田義雄1988「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』17巻5号
- 1991a『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 1991b「ヴォイス的表現と自己制御性」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版
- 1997『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して』くろしお出版
- 平林文雄1988「「しまい」と「すまい」サ変動詞の助動詞「まい」への接続—その混乱と不安定を如何に解すべきか—」『群女国文』15
- 宮島達夫1972『動詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所
- 森本幹雄1995「「しまい」「すまい」「するまい」」『国語教室』52大修館書店
- 森田良行1988『基礎日本語辞典』角川書店
- 森田良行・松木正恵1989『日本語表現文型』アルク
- 森山卓郎1990「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2
- 2000「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」『モダリティ』岩波書店
- 山口堯二2001「「まい」の通時的变化」『仏教大学文学部論集』85
- グループ・ジャマシイ（編著）1998『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版